

直接会ったことがない、その人の言葉を信用して大丈夫ですか？警察官を名乗ったり、必ず儲かる、将来のために投資を・・・信用する根拠はどこにありますか。よく考えてください。たとえ警察官を名乗られても、相手は見ず知らずの人ではありませんか？必ず儲かる、将来のために投資を・・・という言葉も相手は見ず知らずの人なのに、なぜ信用できるのですか？もっと慎重になりましょう。相手の言うがままに、現金を預けるのは非常に危険です。これまでの検挙事例から騙し取られた現金は暴力団の資金源となる場合が多数です。「その言葉やSNS要注意」

◎警察当局の徹底的な頂上作戦～金銭的負担の限界

◎特定危険指定暴力団「工藤会」官報で公示

○ニュースの概要

2026年7月、福岡県公安委員会は、暴力団対策法に基づき、特定危険指定暴力団工藤会の代表者が総裁の野村悟被告(79)から会長の田上不美夫被告(70)へ変更されたことを正式に官報で公示しました。野村被告は約26年間実質的なトップを務めてきましたが、代表者から外れています。

○引退の背景と組織の窮状

絶対的な権力を持っていた野村被告が「引退」と報じられている背景には、警察当局による徹底的な

「頂上作戦」に加え、民事・刑事の両面における「経済的な締め付け」が強く影響しています。

□**経済的・金銭的負担の限界**～野村被告は、4つの市民襲撃事件に関与したとして一審で死刑、二審で無期懲役の判決を受け、現在最高裁に上告中です。これに伴い、被害者や遺族らから巨額の損害賠償請求訴訟が相次いで起され既に1億円以上の賠償を支払う判決が確定しています。さらに連日の差し入れや面会、親族の送迎など組織に大きな経済負担が生じており、代表者交代の一因です。

□**組織防衛を目的とした代表者交代**～これ以上の経済的困窮や警察からの集中監視を避けるため、最高幹部らが野村被告を説得し、組織防衛のために「引退」を受入れさせたと報じられています。

○**警察当局の姿勢：偽装への警戒と「壊滅」への決意**～福岡県警は、当初これが裁判を有利に進めるための「偽装引退」である可能性も視野に慎重に実態を調査していました。しかし、実際に組員による

面会回数が激減し、送迎や差し入れも取りやめられていることから「野村被告の影響力はなくなった」と判断し、今回の代表者変更に至りました。警察当局は「代表者の交代はひとつの通過点に過ぎない。工藤会が完全に壊滅するまで、いかなる状況下においても手を緩めることなく、総力を挙げた諸対策を徹底していく」との姿勢を示しています。

○**賛助会員の皆様へのお願い**～今回の事例は、暴力団に対する刑事・民事両面からの取り組みに加え、企業・地域社会による暴排活動の積み重ねが、暴力団組織の弱体化に繋がることを示す一例です。暴力団は弱体化しているものの、代表者が交代してもその危険性が消え去るわけではありません。

企業・個人の皆様におかれましては引き続き以下の取り組みへの徹底をお願いいたします。

1 暴力団をはじめとする反社会的勢力との一切の関係遮断(契約時の暴排条項適用徹底)

2 不当要求やトラブル発生時の速やかな警察・暴追センターへの相談

3 地域社会・業界内における暴排ネットワークの強化

今後とも、安全安心な社会実現に向け暴力団排除活動のご理解とご協力をお願い申し上げます。